

# 2023年度 中間期 株主通信

BUSINESS REPORT 2023 2023年1月1日～2023年6月30日

すべての革新は患者さんのために

中外製薬株式会社 証券コード：4519



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに2023年度中間期(2023年1月1日から2023年6月30日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年8月

代表取締役社長 最高経営責任者

奥田 修

## Core実績連結財務ハイライト(2023年1月1日～2023年6月30日)

### 売上収益

5,797億円

(前年同期比 15.0%増) ▲

### 営業利益

2,320億円

(前年同期比 15.2%増) ▲

### 四半期利益

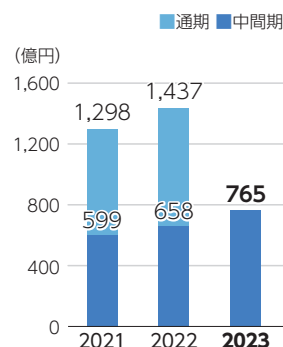
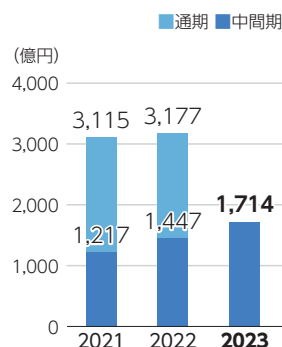
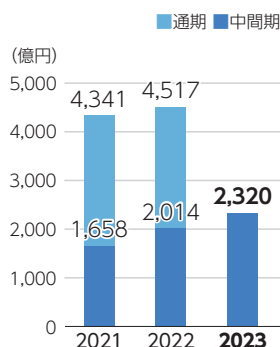
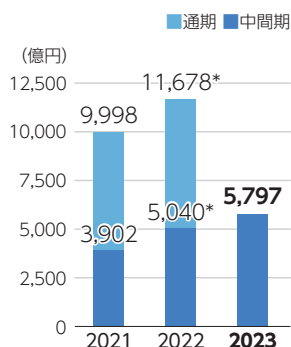
1,714億円

(前年同期比 18.5%増) ▲

### 研究開発費

765億円

(前年同期比 16.3%増) ▲



\* 2023年第1四半期から、連結経営成績の表示方法の変更を行っております。  
比較情報である2022年の売上収益実績は当該変更を適用した金額を記載しております。

▶ より詳細な業績の情報は、当社のIRサイト <https://www.chugai-pharm.co.jp/ir> をご覧ください。

中外製薬 IR

検索

## 2023年12月期中間配当について

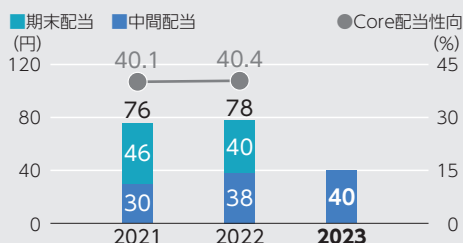
戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案したうえで、Core EPS\*対比平均して45%の配当性向を目処に、株主の皆さまへ安定的な配当を行うことを目標といたします。中間配当につきましては次のとおり実施させていただきます。

中間配当金

1株につき40円

※[Core EPS]とは、当社が定める非経常的損益項目を控除したうえで算出された、当社株主に帰属する希薄化後1株当たり当期利益であります。

## [1株当たり配当金およびCore配当性向の推移]



## [株主様アンケートの実施について]

株主の皆さまからのご意見・ご要望を今後の株主様とのコミュニケーション活動の参考とさせていただきます。WEBアンケートを実施いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。お手元に届きました「株主通信」にご案内がございます。ご参加をお待ちしております。



# 世界のトップイノベーターを目指し、さらなる高みへの挑戦を継続

## 新製品や主力品が順調に伸長 中間期業績は前年同期比で増収増益

2023年度中間期の連結業績(**Core実績**<sup>\*1</sup>、以下同)は、売上収益5,797億円(前年同期比15.0%増)、営業利益2,320億円(同15.2%増)、四半期利益1,714億円(同18.5%増)となり、前期に引き続いて過去最高の中間期業績を更新しました。国内では薬価改定や後発品浸透の影響を受けながらも新製品や主力品が順調に市場浸透、海外では自社創製品のロシュ向け輸出などが大幅に増加しました。

国内製商品の売上高は、新製品や主力品の順調な市場浸透により、3,136億円(同14.5%増)となりました。このうち**オンコロジー領域**<sup>\*2</sup>は、「アバスタチン」「ハーセプチン」「カドサイラ」などの売上が減少したものの、新製品「ポライビー」や主力品「テセントリフ」が堅調に推移し、売上高は1,265億円(同2.8%増)となりました。一方**スペシャリティ領域**<sup>\*3</sup>では、「エディロール」「ミルセラ」などの売上が減少したものの、主力品の「ヘムライブラ」「エンスプリング」が引き続き好調に推移し、新製品の「バビースモ」「エブリスディ」も伸長しました。さらに、COVID-19に対する抗体カクテル療法「ロナプリーブ」の政府納入による売上が寄与したことなどから、当領域の売上高は1,871億円(同24.0%増)と大幅に増加しました。

海外製商品の売上高は2,094億円(同17.0%増)となりました。「アレセンサ」のロシュ向け輸出が前年比で大幅に増加したほか、「ヘムライブラ」も順調に推移しました。

その他の売上収益は、「ヘムライブラ」の初期出荷分に対するロイヤリティ収入が終了したものの、主にマイルストーン収入が増加し、566億円(同10.5%増)となりました。

「ロナプリーブ」の寄与を除いても、基盤ビジネスは順調に成長しており、中間期は想定どおり増収となりました。

## 「TOP I 2030」に向けた取組みも順調に進捗 創薬標的・創薬技術に投資する コーポレートベンチャーキャピタルの設立決定

2030年に向けた成長戦略「TOP I 2030」への取組みも、順調に進捗しています。研究開発においては、自社創製品の「クロバリマブ」について発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)を対象に日米欧での承認申請を行ったほか、「ネモリズマブ」では国内導出先のマルホ社が適応拡大の承認申請を行いました。さらに、独自の抗体エンジニアリング技術を適用した二つ目のスイッチ抗体<sup>TM</sup>プロジェクトである「ROSE12」が固形がんを対象に臨床試験を開始するなど、中長期の利益成長を牽引する自社創製品の

研究開発が着実に進展しています。ロシュからの導入品では、抗IL-6抗体「RG6179」が、眼科領域の新たな開発品としてパイプライン入りしています。

治験用および初期商用原薬・製剤の生産設備への投資にも積極的に取り組んでおり、5月には、宇都宮工場のバイオ原薬製造設備と無菌注射剤製造設備に合計500億円超を新規投資することを決定しました。2026年の稼働を予定しています。藤枝工場でも、低・中分子医薬新製剤設備の増設に49億円を投じることを決定しており、今後も自社供給基盤のさらなる強化に努めます。

6月には、オープンイノベーションの強化に向けた新たな取組みとして、革新的新薬の創出につながる創薬標的や創薬技術などに投資するコーポレートベンチャーキャピタル「Chugai Venture Fund, LLC」の設立決定を発表しました。米国マサチューセッツ州ボストンエリアを拠点に2023年内に設立予定であり、創薬スタートアップ企業を主な対象として総額200百万米ドルの枠内で投資を行います。当社の強みと外部技術を融合し、当社の創薬エンジンをさらに加速することを目指します。

Core通期業績に関しては、当初見通しに変更はなく、売上収益1兆700億円(前年同期比8.4%減)、営業利益4,150億円(同8.1%減)、当期利益3,060億円(同3.7%減)と予想しています。数字上は減収減益となりますが、COVID-19関連治療薬の一時的な影響を除くと、売上収益は増加、営業利益は微増の見通しです。

当社は独自の創薬技術に加え、既存のパートナーリングの枠組みを超えたオープンイノベーションのさらなる推進により、イノベーション創出に継続的に取り組んでまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ✓ 用語解説

- ※1 **Core実績** …当社事業の核(コア)である医薬品事業から発生する経常的な収益性を管理するための指標。IFRS(国際会計基準)実績から、当社が非経常的と捉える事象に係る損益等を除いたもの
- ※2 **オンコロジー領域** …がん領域
- ※3 **スペシャリティ領域** …がん以外の領域

代表取締役社長  
最高経営責任者  
奥田 修

## バイオ医薬品の生産基盤強化に向けて2棟を新規建設

当社は、グループ会社の中外製薬工業株式会社宇都宮工場内に、ノンフロン設計や省エネルギー設計など環境負荷低減を追求したバイオ原薬製造棟(UT3)、および注射剤棟(UTA)を新規建設します。

UT3は、第I相、第II相臨床試験用を含む中期段階以降の治療用原薬の製造、および初期商用の原薬の製造を担います。これにより、浮間事業所内に建設中のバイオ原薬製造棟や既存の製造棟とあわせ、臨床開発から初期商用生産までの一貫した自社供給基盤が更に強化され、自社創製品の高速上市に貢献します。

UTAは、初期商用の無菌注射剤製造を担います。新たな製剤技術と当社独自の抗体エンジニアリング技術を導入し、複雑な構造を持つ抗体の製剤化に対応します。

両棟は、浮間工場で構築・稼働した生産機能のオペレーションを支えるデジタル基盤(プロジェクト名:SPIRITS)を展開するほか、ロボティクスを活用したコスト競争力の高いスマートファクトリーを目指します。

これらにより、臨床開発段階から初期商用生産に至るまで生産を内製できる技術・キャパシティと、自社創製品開発のスピードとフレキシビリティを確保し、ヘルスケア産業のトップイノベーターに相応しい世界水準の製薬・生産機能の構築を目指していきます。

### バイオ原薬製造棟(UT3)新設工事の概要

総投資額	374億円	バイオ原薬製造棟(UT3) イメージ図
着工	2024年1月	
竣工	2026年5月	
稼働	2026年10月	
建築面積	3,206㎡ (免震4階建)	
延床面積	9,791㎡	
設備概要	2,000Lシングルユース培養槽4基+精製1ライン	

### 注射剤棟(UTA)新設工事の概要

総投資額	190億円	注射剤棟(UTA) イメージ図
着工	2024年1月	
竣工	2025年11月	
稼動	2026年3月	
建築面積	2,589㎡ (免震3階建)	
延床面積	7,682㎡	
設備概要	ロボット充填機	

#### 宇都宮工場の概要

- ・所在地: 栃木県宇都宮市清原工業団地16-3
- ・敷地面積: 121,573㎡
- ・業務内容: バイオ医薬品の原薬および製剤製造、検査、包装

## 株主コミュニケーションボード

### 第112回 定時株主総会開催のご報告

3月30日、パレスホテル東京にて、当社の第112回定時株主総会を開催いたしました。開会のご挨拶からの一連の模様(質疑応答含む)を、当社ウェブサイト上のオンデマンド動画配信でご覧いただけます。

▶詳しくは当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.chugai-pharm.co.jp/ir/share/aggm.html>



### 株主総会資料の電子提供制度について

会社法改正により、株主総会資料の電子提供制度が導入されました。株主総会資料は、原則ウェブサイトでの確認になります。引き続き書面にてお受け取りになりたい株主様は、2023年12月31日までに「書面交付請求※」というお手続きが必要です。

なお、議決権行使書用紙とウェブサイトへのアクセス方法を記載した通知書面は郵送でお送りします。

今まで

議決権行使書 + 株主総会資料

株主総会資料を 書面で確認

これから

議決権行使書 + 通知書面

株主総会資料を ウェブで確認

※書面交付請求とは、インターネットを利用することが困難な株主様を保護するためのお手続きです。お申し出いただいた株主様には、「招集ご通知」を書面でお送りするものです。口座を開設している証券会社、または、当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行まで、お問い合わせください。

#### 【電子提供制度に関するお問合せ】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-696-505 (通話料無料/土日祝日を除く平日9:00~17:00)

<https://www.tr.mufj.jp/daikou/shomenkoufu.html>



# 人、環境、地域と調和する 中外ライフサイエンスパーク横浜

緑の中に点在する、最先端創造研究所として2023年4月から全面稼働した中外ライフサイエンスパーク横浜(中外LSP横浜)。人、環境、地域と調和する中外LSP横浜は、当社の国内における創薬研究に関わる機能を集約し、研究開発機能を最大限に発揮できる体制を整えた研究施設です。自由な発想を生み出す緑に囲まれたこの研究所から、革新的な新薬を世界の患者さんにお届けします。



## 最先端設備とDXを活用した研究開発拠点

当社では、2030年を見据え、デジタル技術によって当社のビジネスを革新し、社会を変えるヘルスケアソリューションを提供するトップイノベーターとなる「CHUGAI DIGITAL VISION 2030」を掲げています。創薬技術の高度化および創薬プロセスの変革に向けて、デジタルを活用した革新的な新薬創出(AI創薬)をはじめとするデジタル技術、AIを活用して医薬品開発の成功確率向上を推進するとともに、創薬プロセスの時間やコストを大幅に短縮し、圧倒的な効率化と革新を追求してきました。中外LSP横浜では、これまで進めてきた抗体や中分子創薬におけるAI実装を継続し、クライオ電子顕微鏡などの最先端技術活用に加え、病理画像解析のデジタル化、自動化機器間を連携する自走式モバイルロボットの導入、次世代ラボオートメーションの構築に取り組み、生産性と質の向上を推進しています。



サンプルを運び実験機器に設置しているロボット



CHUGAI DIGITAL 公式アカウント  
当社のデジタル技術への取り組み等をご覧ください。  
<https://note.chugai-pharm.co.jp/>



## 人、環境、地域との調和

### 人とともに

中外LSP横浜は、研究員へのアンケートで寄せられた課題や要望を反映した設計がなされています。特に重視したのは、研究員同士のコミュニケーションを誘発していく仕組みです。研究員が各実験棟の実験室とオフィスを行き来する途中を通る「スパイン」と呼ぶ300mの廊下に、研究員の動線を意識して偶発的な出会いやコミュニケーションが生じやすいように、様々なタイプの会議室やオープンスペース、ワークラボを併設しました。

各実験室は、創薬テーマや抗体、中分子、低分子といった創薬モダリティに合わせて機能ごとに配置しました。実験業務において、何百ものプロジェクトが並行して進む中で、プロジェクト間で研究機器の共有がしやすく、コスト削減と効率化も進展しています。



スパイン



多様なオープンスペースの1つ

### 環境とともに

最新のICT技術を活用した採光・照明・空調制御、屋上の太陽光発電パネル設置とともに、全建物をカバーするエネルギーモニタリング装置を導入しています。さらに、水力発電によるCO<sub>2</sub>排出の無いグリーンなサステナブル電力の調達購入によるCO<sub>2</sub>排出量削減を推進するとともに、実験室などで使用する冷凍冷蔵庫は自然冷媒機器を採用しました。そして、水使用量を削減するために、雨水の貯留と再利用にも取り組んでいます。さらに、敷地西側は大規模な緑地帯として整備して遊歩道を設けるなど、地域アメニティの向上に貢献するとともに、敷地全体に桜を植栽するなどの緑化対策も実施しました。

こうした取組みが評価され、国際的な建築物の環境性能評価制度「LEED」における「LEED GOLD® 認証」、横浜市建築物環境配慮制度（CASBEE横浜）で最高位「Sランク」を取得しました。



エネルギーモニタリング装置の導入

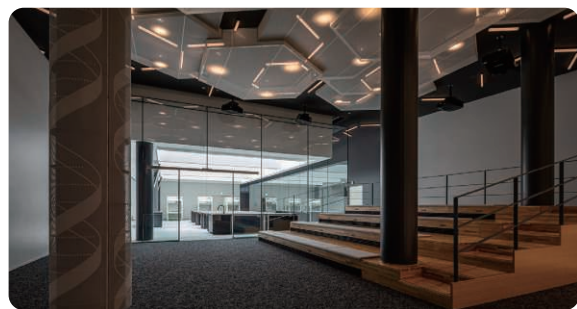


太陽光発電装置の導入



サステナブル電力の調達(イメージ図)

### 地域とともに



バイオラボ

西側敷地西側一帯には、戸塚区の花である桜や地域にゆかりのある木・花などを配した季節が感じられる緑道を、地域の皆さまに遊歩道としてご活用いただいています。

また、JR線路側敷地に福利厚生施設としてサッカー、ラグビーを行えるグラウンドやテニスコートを整備し、戸塚区在住の皆さまに開放しています。

さらに、小学生から高校生を対象とした科学体験施設「バイオラボ」では、実験教室、バイオテクノロジーの教育プログラムなどを通して、これからの社会の担い手となる次世代に対して、科学や医薬への興味・関心を高めてもらえる機会を創出しております。

#### 施設概要

名称	中外ライフサイエンスパーク 横浜（略称：中外LSP横浜）	建物構造	全16棟（西側7棟、東側9棟）、地上6階/地下1階
住所	横浜市戸塚区戸塚町216番地	竣工	2022年10月
敷地面積	158,600m <sup>2</sup>	全面稼働	2023年4月
延床面積	119,500m <sup>2</sup>	従業員	約1,000名
将来用地	31,770m <sup>2</sup>		

詳細は、中外ライフサイエンスパーク 横浜のサイトをご覧ください。

<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/lsp/>



## 主な臨床開発の状況 (2023年7月27日現在)

■がん領域 ■免疫疾患領域 ■神経疾患領域 ■血液疾患領域 ■眼科領域 ■その他の領域

開発コード	創製元	一般名	販売名	予定適応症<併用薬>
<b>承認</b>				
ACE910/RG6013	自社	エミシズマブ	ヘムライブラ	中等症血友病A # 欧州
MRA/RG1569	自社	トシリズマブ	アクテムラ	COVID-19肺炎 # 台湾
<b>申請済</b>				
RG6264	ロシュ	トラスツズマブ/ペルツズマブ	—	乳がん/大腸がん
MRA/RG1569	自社	トシリズマブ	アクテムラ	悪性腫瘍治療に伴うサイトカイン放出症候群 # 日本
MRA/RG1569	自社	トシリズマブ	アクテムラ	全身性強皮症に伴う間質性肺疾患 # 欧州
SKY59/RG6107	自社	クロバリマブ	—	発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) 中国
				発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) 日本、欧州、米国
RG7716	ロシュ	ファリシマブ	バビースモ	網膜静脈閉塞症 #
<b>第Ⅲ相</b>				
AF802/RG7853	自社	アレクチニブ塩酸塩	アレセンサ	非小細胞肺癌 (アジュバント) #
				非小細胞肺癌 (ステージⅢ) 化学放射線療法後の維持療法 #
RG7446	ロシュ	アテゾリズマブ	テセントリク	非小細胞肺癌 (ネオアジュバント) #
				筋層浸潤性膀胱がん (アジュバント) #
				早期乳がん (ネオアジュバント) #
				肝細胞がん (アジュバント) # <アバスチン> #
				肝細胞がん (intermediate ステージ) # <アバスチン> #
				肝細胞がん [二次治療] # <レンバチニブまたはソラフェニブ>
				頭頸部がん (維持療法) #
				前立腺がん [二次治療] # <カボザンチニブ>
RG435	ロシュ	ペバシズマブ	アバスチン	小細胞肺癌 [一次治療] # <テセントリク>
RG6058	ロシュ	チラゴルマブ	—	非小細胞肺癌 [一次治療] <テセントリク>
				非小細胞肺癌 (ステージⅢ) <テセントリク> #
				非扁平上皮非小細胞肺癌 [一次治療] <テセントリク>
				食道がん <テセントリク> #
RG6171	ロシュ	giredestrant	—	乳がん (アジュバント)
				乳がん [一次治療] <パルボシクリブ+レトロゾール>
				乳がん [一次治療～三次治療] <エベロリムス>
RG7828	ロシュ	mosunetuzumab	—	濾胞性リンパ腫 [二次治療] <レナリドミド>
				再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫 <ボライビー> #
RG6396	Blueprint Medicines	プラルセチニブ水和物	—	非小細胞肺癌 [一次治療] <ペムプロリズマブ>
RG7159	GlycArt Biotechnology	オビヌツズマブ	ガザイバ	ループス腎炎 #
				小児特発性ネフローゼ症候群 #
SA237/RG6168	自社	サトラリズマブ	エンズプリング	全身型重症筋無力症 (gMG) #
				抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患 (MOGAD) #
				自己免疫介在性脳炎 (AIE) #
RG6356/ SRP-9001	Sarepta*	delandistrogene moxeparvovec	—	デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD)
SKY59/RG6107	自社	クロバリマブ	—	非典型型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)
RG7716	ロシュ	ファリシマブ	バビースモ	網膜色素線条
RG6179	ロシュ	—	—	非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫 (UME)
<b>第Ⅱ/Ⅲ相</b>				
GYM329/ RG6237	自社	—	—	脊髄性筋萎縮症 <エプリスディ>

各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもって試験開始としています。\* Sarepta 社が日本を含むグローバルでの臨床試験を主導。

■ : 2023年1月以降の進捗 ■ : 適応拡大

開発コード	創製元	一般名	販売名	予定適応症(併用薬)
<b>第II相</b>				
RG6396	Blueprint Medicines	プラルセチニブ水和物	—	非小細胞肺癌[二次治療] 固形がん
GYM329/ RG6237	自社	—	—	顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー (FSHD)
RG6042	Ionis Pharmaceuticals	トミネルセン	—	ハンチントン病
RG7906	ロシュ	ralmitaront	—	統合失調症
SKY59/RG6107	自社	クロバリマブ	—	鎌状赤血球症 (SCD)
<b>第I/II相</b>				
NXT007/RG6512	自社	—	—	血友病A
RG6321	ロシュ	ラニビズマブ (Port delivery system)	—	新生血管を伴う加齢黄斑変性 糖尿病黄斑浮腫
<b>第I相</b>				
LUNA18	自社	—	—	固形がん
GC33	自社	codrituzumab	—	肝細胞がん
ERY974	自社	—	—	固形がん
STA551	自社	—	—	固形がん
SOF10/RG6440	自社	—	—	固形がん
ALPS12/RG6524	自社	—	—	固形がん
SAIL66	自社	—	—	CLDN6 陽性固形がん
ROSE12	自社	—	—	固形がん
SPYK04	自社	—	—	固形がん
RG7828	ロシュ	mosunetuzumab	—	濾胞性リンパ腫[三次治療]
RG7421	Exelixis	コビメチニブフマル酸塩	—	固形がん
RG7802	ロシュ	cibisatamab	—	固形がん
RG6026	ロシュ	glofitamab	—	血液がん
RG6194	ロシュ	runimotamab	—	固形がん
RG6160	ロシュ	cevostamab	—	再発または難治性の多発性骨髄腫
RG6330	ロシュ	—	—	固形がん
RG6433	Relay Therapeutics	—	—	固形がん
SKY59/RG6107	自社	クロバリマブ	—	ループス腎炎
DONQ52	自社	—	—	セリアック病
RAY121	自社	—	—	自己免疫疾患
RG7935	Prothena	prasinezumab	—	パーキンソン病
RG6100	AC Immune	semorinemab	—	アルツハイマー病
RG6102	MorphoSys	trontinemab	—	アルツハイマー病
AMY109	自社	—	—	子宮内膜症

## クロバリマブ、発作性夜間ヘモグロビン尿症に対し 国内で製造販売承認申請

当社が開発したリサイクリング抗体<sup>®</sup>技術を用いた抗補体C5リサイクリング抗体クロバリマブについて、発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)を対象とし、6月14日に厚生労働省へ製造販売承認申請を行いました。また、米国、欧州においてもそれぞれ6月に規制当局へ申請を行っています。一般的な抗体では、抗原に一回しか結合することができないのに対し、クロバリマブは繰り返し抗原に結合するよう改変することで、低用量で持続的な補体阻害が可能となり、4週ごとの皮下投与を実現しています。本剤は、補体系で重要な役割を担うC5を標的にすることで補体の活性化を制御するとともに、皮下注射による治療で患者さんおよび介護者の負担軽減をもたらすことが期待されています。



## コーポレートベンチャーキャピタル の設立を決定

当社は、革新的新薬を核とするイノベーション機会の加速に向け、2023年中にコーポレートベンチャーキャピタル「Chugai Venture Fund, LLC」を米国マサチューセッツ州ボストンエリアに設立します。当社独自の創薬基盤を拡充させる技術を保有する創薬スタートアップ企業を主な対象に、総額200百万米ドルの枠内で投資を行い、投資先との共創により、当社の強みと外部技術の融合による新たな価値創造を目指します。

## 会社の概況／株式の概況（2023年6月30日現在）

### 会社概要

会社設立	1943年(昭和18年)3月8日
創業	1925年(大正14年)3月10日
資本金	73,201,755,723円
従業員数	7,911名(連結)
本店	東京都北区浮間五丁目5番1号
本社事務所	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

### 役員

取締役	監査役
代表取締役社長 奥田 修	常勤監査役 大箸 義章
取締役上席執行役員 山田 尚文	常勤監査役 山田 茂裕
取締役上席執行役員 板垣 利明	社外監査役 二村 隆章
社外取締役 桃井 眞里子	社外監査役 増田 健一
社外取締役 立石 文雄	社外監査役 早稻田 祐美子
社外取締役 寺本 秀雄	
取締役 クリストフ・フランツ	
取締役 ジェイムス・エイチ・サブリエ	
取締役 テレッサ・エイ・グラハム	

### 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月

配当金	期末配当金受領株主確定日 毎年12月31日 中間配当金受領株主確定日 毎年 6月30日
-----	------------------------------------------------

公告	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
----	--------------------------------------------------------------------------

1単元の株式数 100株

#### 株主名簿管理人

特別口座の  
口座管理機関

(連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
☎0120-232-711(通話料無料)  
(受付時間 土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)

上場証券取引所 東京

### 株式状況

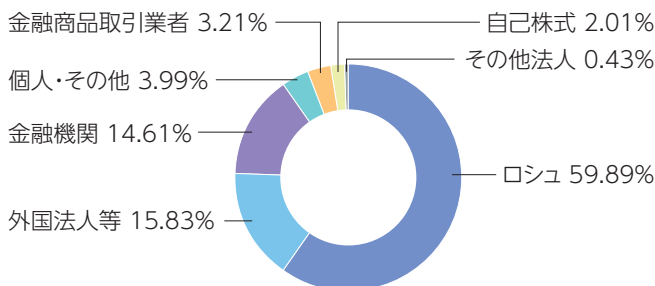
発行可能株式総数	2,399,415,150株
発行済株式の総数	1,679,057,667株 (自己株式33,788,461株含む)
株主数	73,256名

#### 大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ROCHE HOLDING LTD	1,005,670	61.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	146,643	8.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	60,183	3.65
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	31,980	1.94
SMBC日興証券株式会社	21,279	1.29
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS	15,060	0.91
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	14,542	0.88
住友生命保険相互会社	9,000	0.54
JP MORGAN CHASE BANK 385781	8,780	0.53
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	7,560	0.45

※当社は自己株式33,788千株を保有しておりますが、上記の大株主(上位10名)の中には含めておりません。  
※上記の「持株比率」は、発行済株式の総数から自己株式の数を控除して計算しております。  
※上記の「株主名」は、株式会社証券保管振替機構から通知された「総株主通知」に基づき記載しております。

### 株式分布状況



#### 単元未満株式 買取・買増 請求制度の ご案内

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主様は、買取・買増制度のご利用については是非ご検討くださいますようお願い申し上げます。なお、お手続きはお取引先の証券会社または上記三菱UFJ信託銀行の連絡先にお申し出ください。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



用紙は、FSC®森林認証紙を使用しています。インキはVOC(揮発性有機化合物)が1%未満のノンVOC  
インキを使用しています。印刷は有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷を採用しています。



すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

Roche ロシュ グループ

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号  
TEL.03(3281)6611 (代表)